

工大祭・屋内企画

「ろじかる☆クイズラリー」

日時: 10月19日・20日
10:00~18:30

場所: 1号館106室

参加学生(8人)

3BB1: 金澤、濱田

2EL1: 横田

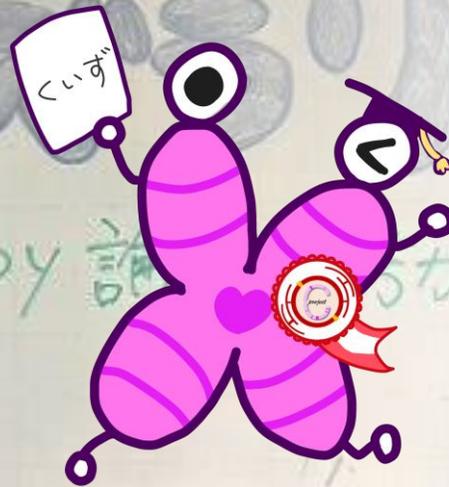
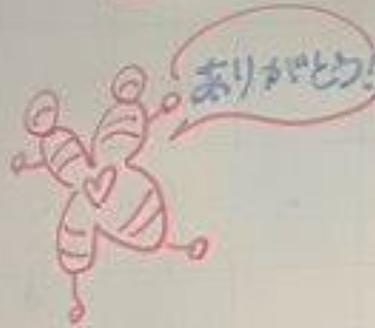
2BC1: 橋本

2BB1: 三島

1BB1: 長部、関澤、黒岩

大人気! うえるかむ!

ろじかる ☆



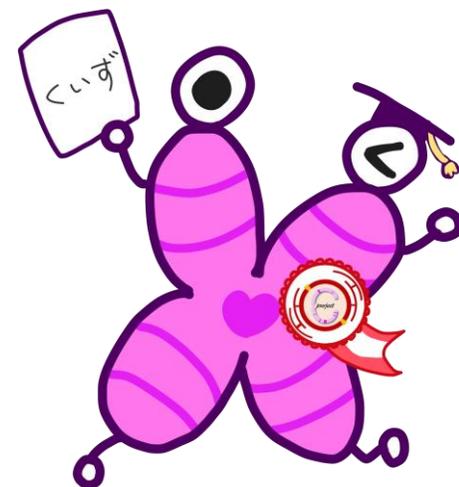
非公式キャラクター「くろもん」

目的

- ① 論理的な問題に触れ、多角的な視点から物事を見つめる。
- ② 花粉管の伸長についての理解を深め、その面白さを知ってもらう。
- ③ 企画を通して、一人一人が成長する。

内容

- ・ ワンポイントセミナーで用いた論理的思考力を鍛える問題を難易度別に掲示し、解いてもらう。
- ・ G-band処理をしたヒト染色体標本とサルスベリの花粉管を顕微鏡を用いて観察した。
- ・ 染色体並べ替えソフト「CRASTA」を体験してもらう。



改善点

・企画内容

昨年度

「めざせ！染色体マスター」

- ・ミニ講義
- ・ヒト染色体標本の観察
- ・「CRASTA」の体験

来場者が一定数集まらないと
実施できない...

時間がかかってしまう...

今年度

「ろじかる★クイズラリー」

- ・クイズラリー
- ・ヒト染色体標本の観察
- ・「CRASTA」の体験
+景品を作成・配布した

メンバー：少人数でも運営できる！
来場者：自分のペースで体験できる！

非公式キャラクター「くろもん」メダル



← 約5cm →

裏面



裏面にHPの
QRコードを
掲載



←お子様には紐を
つけてペンダント
仕様に

約200枚配布→10/19～10/21までの読み取り回数 **26回**

反応率は10%を超えたため、プロジェクトの発信効果は十分であった。

会場レイアウト

出口



景品・アンケート・クイズ
の解答収集

昨年度・前学期の
実験内容の揭示

CRASTA

顕微鏡での花粉管の
観察

クイズ解答スペース

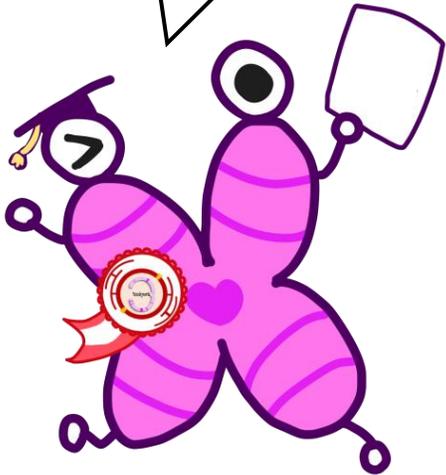
論理的思考力クイズ

入口

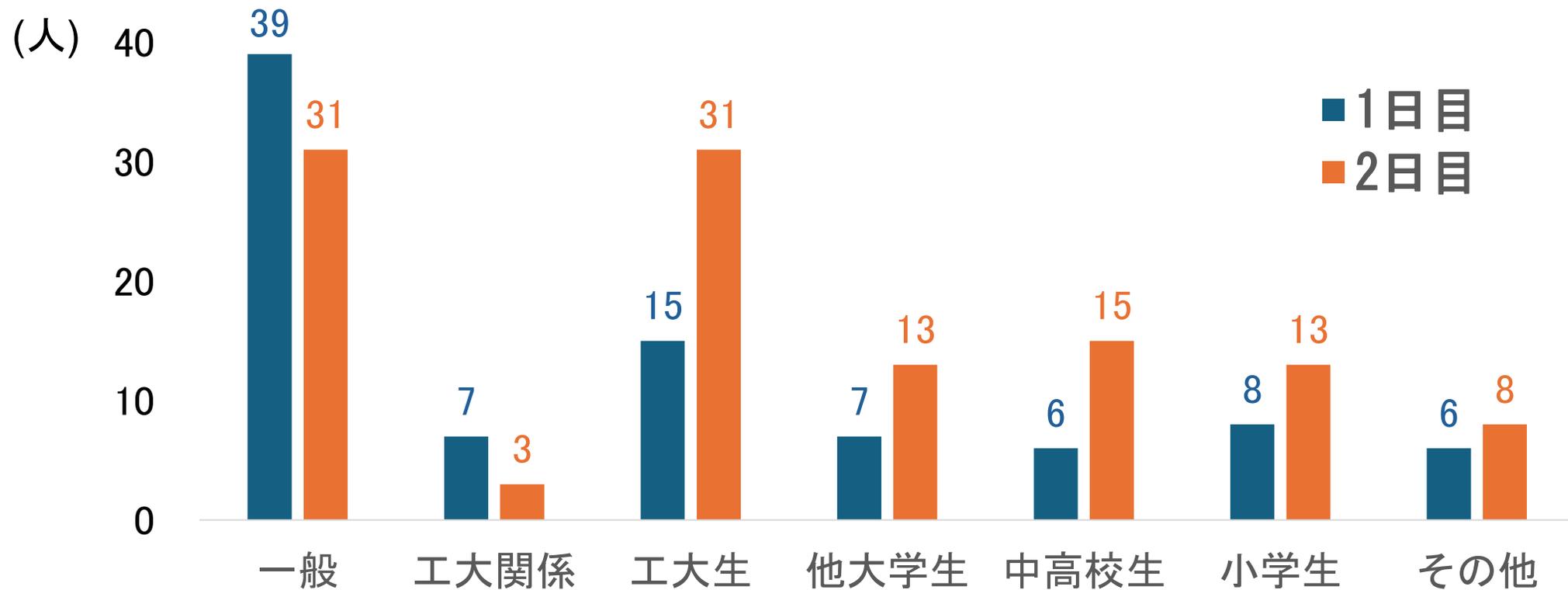


プロジェクト紹介動画

クイズの待ち時間も
他のコーナーを見て
もらったよ♪



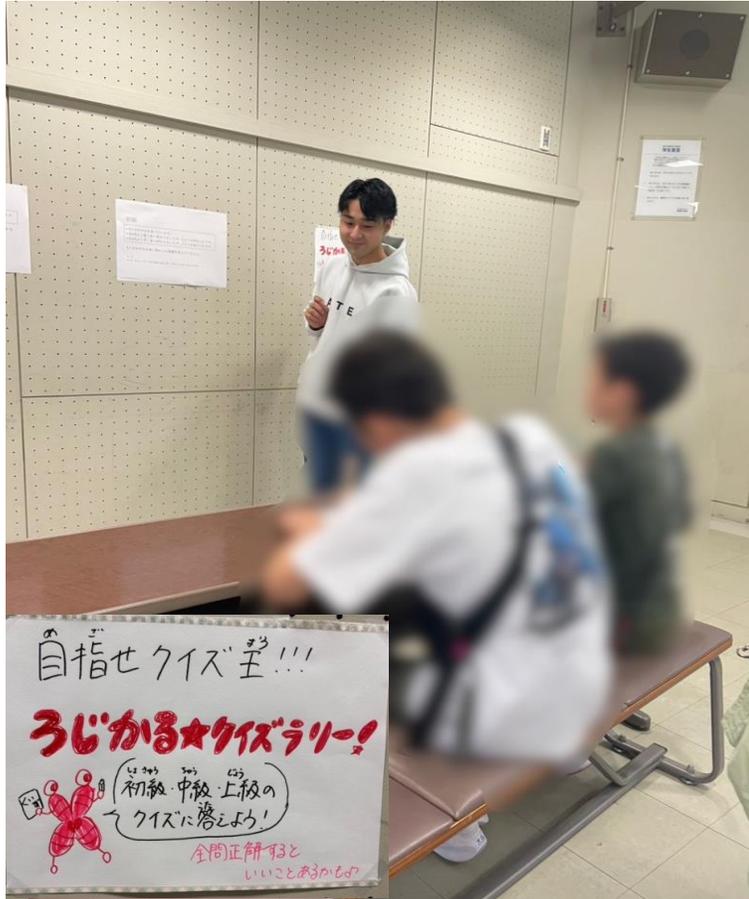
来場者数 1日目196人 2日目265人 計461人



工大生: 昨年度 22人 → 今年度 46人

学内へのプロジェクトのアピールができた!

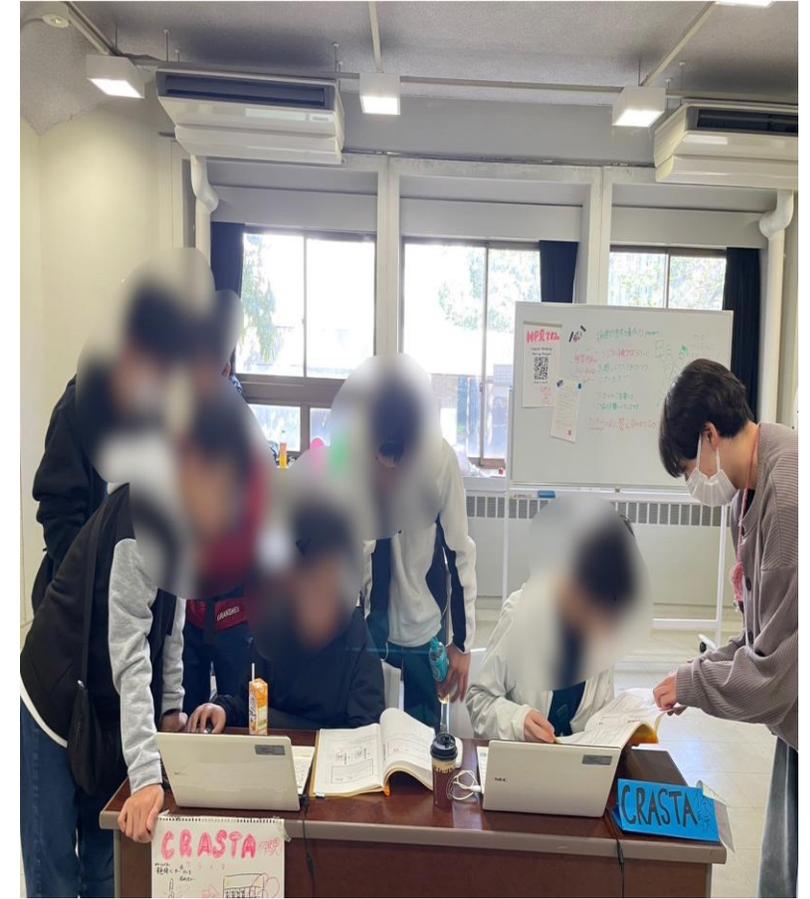
実際の写真(1号館106室)



クイズラリー



顕微鏡での観察



CRASTA

4種類の問題に挑戦してもらった

初級

- 5人がお弁当を食べています。
- AはBより遅く食べ終わりましたが、Cよりは早かったです。
- DはEより早く食べ終わりましたが、Cよりは遅かったです。

5人がお弁当を食べ終わった順番を教えてください。

ヒント

AとB、DとE、そしてCの順番を紙に書いて考えると答えがわかるかも・・・



中級

自動で歩くロボットがいます。そのロボットは1分に2メートル進みますが、直後に1メートル後退します。

ロボットが10メートル先のゴールテープを切るのに何分かかりますか。

ヒント

1分で1メートル進めるから、10分・・・ではありません！



上級

嘘をつけない正直者が住む「真実の町」と、嘘しか言わない人ばかりが住む「嘘つき町」の分岐点にいます。どちらの道がどちらの町に続いているのかわかりません。目の前には人が立っていますが、どちらの町民かわかりません。

どんな質問をしたら真実の町への道がわかるのでしょうか。

ヒント

嘘つきの町民は必ず嘘を言います。

初級・中級・上級が解けたら… 最強に挑戦！！！！

最強

- あるパーティーに3人の幼女A、B、Cが招待された。
- 以下は、幼女たちの発言である。

パーティー2日前

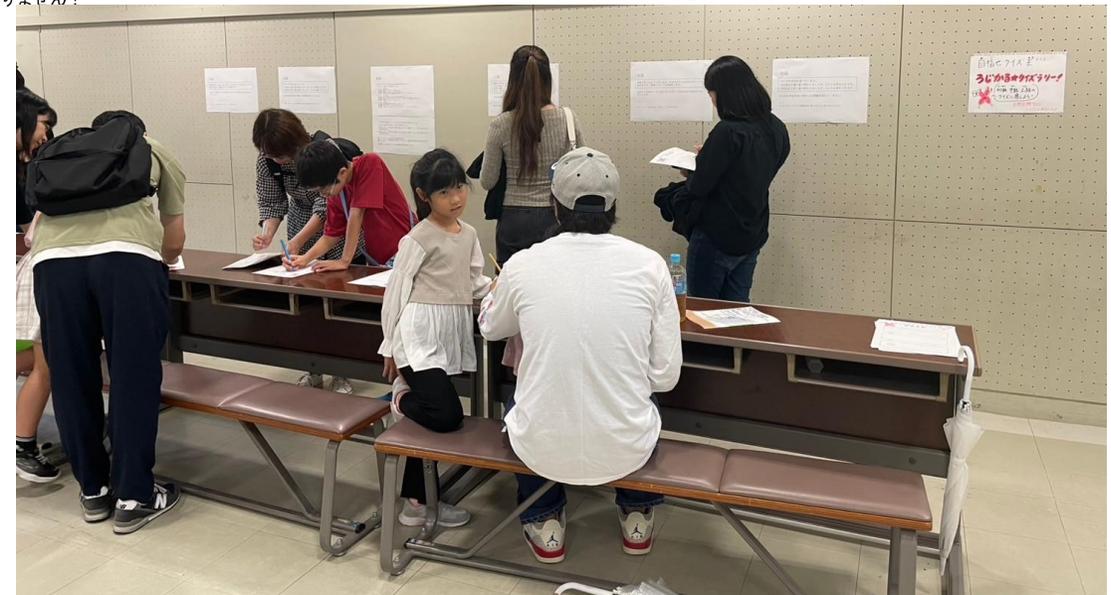
- 幼女A「Bはパーティーに行くよ」
- 幼女B「Cはパーティーに行かないよ」
- 幼女C「私が出席する場合だけAもパーティーに行くよ」

パーティー1日前

- 幼女A「私が欠席するならCは出席するよ」
- 幼女B「私たち3人の中でパーティーに行くのは偶数人数だよ」
- 幼女C「Aはパーティーに行くよ」

パーティー当日

- 幼女A「まだ2018年にはなっていないよ」
- 幼女B「私が行くときだけAも行くよ」
- 幼女C「3人のうち少なくとも1人はパーティーに行かないよ」



お子様にも楽しんでもらえた

参加した学生の感想

クイズラリーは少人数でも運営しやすく、メンバーの負担が大きすぎることなく二日間の運営を行うことができた。



クイズはメンバーやお客さんにとってもなじみがあり、集客力が高かった。メンバーが自分ができることを自分で見つけて行動できていた。

事前の計画が不十分であったため、ポスターや、クイズの準備がぎりぎりになってしまった。

まとめ

- ミニ授業を論理的思考力クイズにしたことで、少人数でも効率よく運営でき、来場者の満足度も高かった。
- 来場者数の増加に加え、景品にQRコードを掲載することで、学外にプロジェクトを発信することができた。
- 教室が1号館の奥だったため、来場者にとっては足を運びづらかった。
- 来年はさらなる来場者数の増加と学外へのプロジェクトの発信を目指す。

ご来場ありがとうございましたモン♪

